



令和4年4月24日(日)

12:00開演(11:00開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始: 令和4年2月1日(火) 午前10時~

料金: 全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階後席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円(25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

・ご自身の身近に新型コロナウイルス感染症に感染した方、またはその可能性のある方がいらっしゃるお客様、入管法に基づく入国制限の対象となっている地域から日本への入国後14日間経過していないお客様のご来場はお断りいたします。

・会場入り口前で手指の消毒、検温を実施させていただきます。体温が37.5℃以上の方、あるいは体調の悪い方のご入場はお断りさせていただきますことがございます。

主催: 公益財団法人十四世六平太記念財団

協力: 一般社団法人喜多流職分会

後援: 品川区、品川区教育委員会

喜多流自主公演

令和四年 四月

小袖曾我 佐藤 陽
 西行桜 栗谷 明生
 綾鼓 長島 茂

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※令和4年度公演の年間優待券は、令和4年1月6日(木) 午前10時より発売いたします。
- ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

※新型コロナウイルス感染の地域における動向や政府等の通達などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂する場合がございます。

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・感染防止のため、2階ラウンジでのご飲食は短時間にてお済ませくださいようお願いいたします。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

当能楽堂は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などのガイドラインに基づき、感染拡大防止のための対策ガイドラインを定めています。

なお、本ガイドラインの内容は、新型コロナウイルス感染の地域における動向や専門家の意見などを踏まえ、必要に応じて適宜改訂を行うものとさせていただきますので、ご来場の前には当能楽堂HPにてご確認ください。

お客様におかれましても、ご自身の感染予防とともに周りのお客様にご配慮いただけますよう、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染対策ガイドライン
<http://kita-noh.com/covid-19-guidelines/>

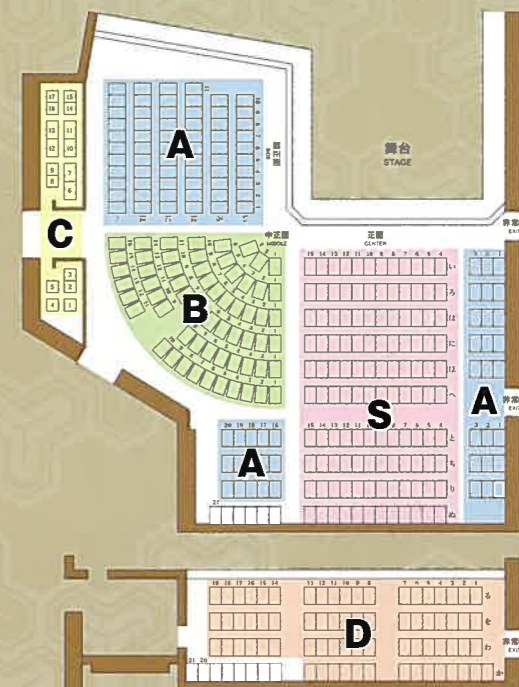


喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

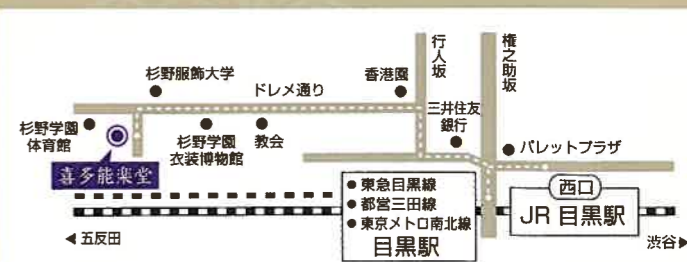
- ・ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ・お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ・ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席 9,000円 C席(1階後席) 6,500円
 A席 8,000円 D席(2階席) 6,500円
 B席 7,000円 学生席(2階席) 2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車での来場はご遠慮願います。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9
 TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999
 喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>

四月自主公演番組

能

シテ連・鬼王 金子龍晟
シテ連・團三郎 高林昌司
シテ連・曾我兄弟の母 佐藤寛泰
シテ連・曾我時致 友矩
シテ・曾我祐成 佐藤陽

小袖曾我

アイ・侍女 三宅近成

後見 塩津哲生
松井 彬

大鼓 柿原孝則
小鼓 森澤勇司
地謡 友枝雄太郎 粟谷浩之
友枝圭介 友枝雄人
友枝真也 大村 定
狩野祐一 粟谷充雄

狂言

秀句傘

シテ・大名 三宅右矩

アド・太郎冠者 前田晃一
小アド・新参の者 金田弘明

休憩(二十分)

能

西行桜

シテ・老桜の精 粟谷明生

ワキ連・花見の人 喜多雅人
ワキ・西行法師 福王茂十郎
ワキ連・花見の人 村瀬 提
ワキ連・花見の人 村瀬 慧
アイ・西行庵の能力 高澤祐介

後見 香川靖嗣
谷 大作

大鼓 亀井広忠 太鼓 小寺佐七
小鼓 大倉源次郎 笛 槻宅 聡
地謡 金子龍晟 高林 伸二
狩野祐一 狩野了一
塩津圭介 出雲康雅
友枝雄太郎 大島輝久

休憩(十分)

仕舞

蝉丸

出雲康雅

地謡 佐藤寛泰
内田成信
大島政允
大島輝久

能

シテ連・女御 佐々木多門

綾鼓

後シテ・前同人の霊 長島 茂
前シテ・庭掃きの老人

ワキ・臣下 福王和幸

アイ・臣下の従者 前田晃一

大鼓 原岡一之 太鼓 大川典良
小鼓 田邊恭資 笛 一噌幸弘

後見 友枝昭世
内田安信

地謡 高林昌司 粟谷浩之
佐藤寛泰 金子敬一郎
友枝真也 中村邦生
谷 友矩 内田成信

附祝言

終了予定時刻 五時頃

小袖曾我(こそでそが)

源頼朝が富士の裾野で催す狩りに参加することになった曾我十郎祐成(すけなり)、五郎時致(ときむね)の兄弟は、その場に父の仇工藤祐経も来ることを知り仇討ちを決意する。兄弟は狩場へ赴く前に曾我の里に帰り、出家せよとの言いつけを破り勘当された時致の事を許してもらうため母を訪れる。祐成は歓待されるものの、時致は対面も叶わず重ねて勘当を言い渡される。しかも母は、祐成がとりなそうとするならば二人とも勘当すると告げます。祐成は悲しむ時致を伴ない母の元へ推参し、仇討ちの意義を説いて時致の勘当を解くよう訴えるが母は尚も許さない。兄弟は母の頑なな態度に説得を諦め泣く泣くその場を立ち去ろうとする。今生の別れに母はたまらず兄弟を呼び留めて許しを出し親子は涙を流す。門出の盃を交わした後、兄弟は名残の舞を合舞する。そして涙ながらに母に別れを告げ、見事に仇討ちを遂げようと勇んで富士の狩場へと急ぐのだった。(約六十五分)

秀句傘(しゅうくがらかさ)

ある時大名は、この頃の会合で皆が笑い合っているのは何故か分からずいたので、太郎冠者に聞いてみた。すると「それは秀句(しゅうく)である」という。意味がよく分からない大名は、秀句のうまい者を探してくるように命ずる。そして太郎冠者は「傘」の秀句がうまい、新参の者を見つけてくる。新参の者は秀句を織り交せて大名と話すが、大名はまだ理解できないでいる。太郎冠者は秀句の説明を受けると、今度は訳も分からず何でも面白い秀句と思いい、笑い転げて自分の持ち物を果ては着物までも新参の者に渡してしまう。(約二十五分)

西行桜(さいぎょうざくら)

西行法師が京都西山の庵で、桜の花見を一人静かに楽しんでいたら、大勢の花見客が訪れる。一行がはるばる都から訪れたと聞き、花見客を招き入れたが、その騒がしさに俗界に引き戻される想いに思わず「花見にと群れつつ人の来るのみぞ あたら桜の科にはありける」と和歌を詠む。その夜、一行と桜の木の前で仮寝すると、桜の木から老人が現れ西行法師の和歌について「桜の科」とされたことに抗議して桜に罪はないと述べる。そして老人は桜の精だと名乗り、桜の名所を数々あげその美しさを讃え、名残を惜しみつつ舞を舞って夜明けとともに消えていくのだった。(約九十分)

綾鼓(あやのつづみ)

木の丸御殿の庭掃きの老人が、女御の姿を垣間見て恋慕の情を抱いてしまう。臣下が女御の言葉を伝える。「池辺の木に掛けた鼓を打って、その鼓の音が皇居に聞こえればもう一度会ってやろう」というのである。老人は喜び、その鼓を見つめ、鼓を打つが「綾」が張られた鼓は当然、音が出ない。なぶられたと知った老人は、嘆き悲しみ、池に身を投じて恨み死ぬ。(中人)その噂を聞いた臣下が女御へ伝える。祟りを恐れ池のほとりに顔を出すように勧める。やがて老人の霊が現れて、女御に綾の張られた鼓を打ちたまえと責めさいなむ。鼓は鳴るわけもなく、老人の霊は恨みを残したまま再び池へ消えていくのであった。(約八十分)

令和四年 五月 自主公演番組予告

令和四年 五月二十二日(日) 正午始

十四世喜多六平太記念能楽堂

前売開始 令和四年三月一日(火) 午前十時

頼 政 中村 邦生
賀茂物狂 佐藤 寛泰
船 橋 塩津 圭介